

札幌合同らいらく会 講演会

講師に手嶋龍一氏を招き講演



10月26日(木)、札幌合同ライラック会 講演会が開催されました。札幌東らいらく会を代表し原田会長が挨拶、続いて北海道銀行兼間頭取が挨拶しました。講演会には外交ジャーナリストの手嶋龍一氏を講師として招き、先端半導体の安全保障について、ジャーナリスト目線の意見を交え、たっぷりと語っていただきました。



てしま りゅういち
手嶋 龍一 外交ジャーナリスト・作家

慶應義塾大学経済学部を卒業後、1974年にNHKに入局し、政治部記者として官邸、外務省で外交・安全保障政策を担当。1987年からワシントン特派員としてホワイトハウス・国務省・国防総務省を担当。1989年暮れにはマルタ島の米ソ首脳会談取材し東西冷戦の終焉に立ち合う。翌1990年には湾岸危機・戦争の取材で最前線へ。1994年からハーバード大学CFIA・国際問題研究所に招聘されフェローに。その後、NHKドイツ支局長を経て、1997年からワシントン支局長を8年間にわたって務める。この間、2001年の同時多発テロ事件に遭遇し11日間連続の昼夜中継を担う。2005年にNHKから独立し、「日本初のインテリジェンス小説」と評された「ウルトラ・ダラー」を発表。姉妹篇の「スギハラ・サバイバル」と共に50万部を超すベストセラーに。『たそがれゆく日米同盟』、『外交敗戦』、『ブラックスワン降臨』、『鳴かずのカッコウ』、『武漢コンフィデンシャル』など著書多数。2023年6月には『ウクライナ戦争の嘘』（中公新書ラクレ）を上梓。外交・安全保障・インテリジェンスを中心に新聞・雑誌のコラムニストとしても健筆を揮う。慶應義塾大学・大学院の教授としてインテリジェンス戦略論を担当、現在も一線のビジネスマン、官僚などの指導に取り組んでいる。